矢野玄道（やのはるみち）　國學者。文政六年十一月十七日伊豫國喜多郡河内村生れ、明治二十年五月十九日歿（一八三―八七）。字太清、通稱茂太郎、谷九郎。號六ひらのあさみやぬりはるみち、倚松堂、倚梅堂、天放山人、天放散人、失方散人、子清、平朝臣玄道、平玄道、平矢埜玄道、後樂閑人、扶桑眞人、敬進、梅屋、梅廼舍、眞弓、谷眞人等。父道正に國學を學び、弘化二年京の順正書院に遊學、伴信友、八田知紀等に知る。四年江戸の平田塾に入門、また昌平坂學問所で國學を研鑽。嘉永四年帰藩、鳴琴堂等で子弟を教授。一方皇學校設立の建白、山陵復興の建言などを朝廷や關白に提出して、王政復古運動に關はる。この間、主著『皇典翼』、『神典翼』等を執筆。慶應二年新政府への建言『藏行信語』を呈す。次で皇學所御用掛を命ぜられ、維新後神祇事務局判事、内國事務權判事、明治二年御系圖御用掛となるも、翌年國事上の嫌疑を受け郷里で謹慎。のち修史館御用掛、皇典講究所初代文學部長、圖書寮御用掛等歴任。修史事業に盡力し、史料編纂所設立の基礎を築いた。

著書に『玉鉾物語』（平玄道名、平直清校、文久二年春）三月附）、『豫美國考證』（平玄道名、明治二年ふみつきの頃・大教院藏板、橋田孝助・森屋治兵衛賣捌）、『眞木柱』（平朝臣玄道名、内題「まきはしら」明治六年七月官許、京都・玄枝堂藏版）、『本教學鉾』（明治十一年二月、のち六月十四日刊序届、氣吹舍藏板）、『憑狂人』（平朝臣玄道名、村上鎌太郎・田口水足校、明治二十一年十二月八日出版十日届、玄同舍）、『玖賀陀智加藤清正公傳』（竹下眞美編、大正四年十一月二十日熊本・加藤神社藏版、清正公頌德會）、『正保野史』

（「正保野史復製」・森儀吉譯註「譯註正保野史」、昭和十四年五月二十七日大阪・米屋成治刊）等。矢野太郎著『矢野文道』（昭和八年六月二十日愛媛縣教育會「愛媛縣先哲偉人叢書」）、越智通敏著『矢野文道の本教学（その生涯と思想）』（昭和四十六年四月二十九日錦正社「国学研究叢書」）がある。